

笠置町

Kasagi Town

笠置の史跡に心をまかせて

東明寺の乱杖

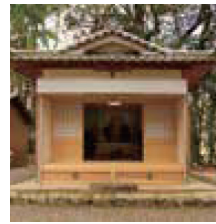
毎年1月2日(昔は1月3日)に東明寺で行う乱杖(らんじょう) (乱杖=おこない)

区民全員が集まり僧侶のお経45分位おこなわれる。その間20分程の時、30分程の時、40分程の時、僧侶が立ち上がり錫杖(しゃくじょう)を振り、乱杖と大声で告げる。それを合図に仏前の両側に座っている各家の長及び縁側に居る者全員で柳で作った桴(ぶち)で板をたたくと同時に法螺貝(ほらがい)2個吹鳴・大太鼓の乱れ打ちをする。

この行事は作物につく害虫の追い払いである。

昔は牛玉・札は版木で刷って宝印を朱で押して柳の板に挟んだ旗を区全戸に餅と共に配り、各家の苗代に供えた。

1722年に牛玉札用具ができ、乱杖が行われたと思われる。

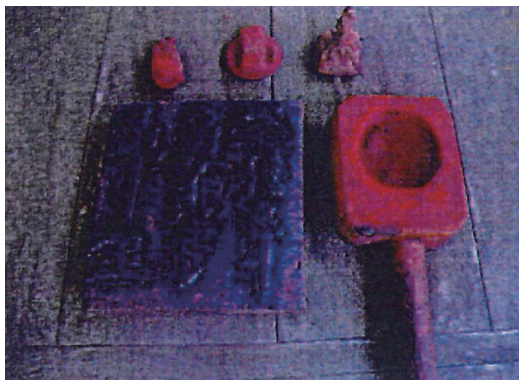


東明寺



1月2日に行われる乱杖の様

牛玉札用具



2017年(平成29年)8月21日
京都府有形民俗文化財暫定登録
飛鳥路東明寺の牛玉・札・用具一式玉点

- ◇ 版木(東明寺の印形)
たて24.8cm 横23.0cm 厚さ4.0cm
1722年 享保7年 丑寅正月吉日 作製
- ◇ 朱肉
長さ32.0cm 幅13.4cm 厚さ6.0cm
1736年 享保21年 辰正月 作製
- ◇ 宝印
①9.0cm×4.0cm ②7.5cm×7.2cm×2.4cm
- ◇ バレン

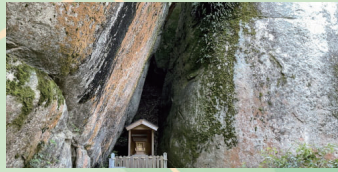
笠置町

Kasagi Town

笠置山行場巡り

笠置寺は山寺。1周800mの修行場巡りは別世界。

奈良時代に南都僧侶が修行された山道は遊歩道として整備され、驚きと発見をともなう自然を楽しむコースとなりました。四季折々の笠置山をお楽しみください。



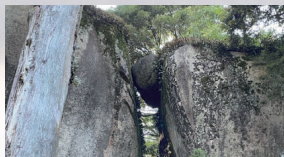
A 千手窟

東大寺大仏殿建立のため良弁和尚が千手の秘法を行い、一大事業を成し遂げられました。実忠和尚はこの隠穴から弥勒の世界に至って、観音悔過法を学ばれました。



B 後醍醐天皇行在所・もみじ公園

行場巡りもいよいよ終わり。山頂へと続く階段を登ると、後醍醐天皇の行在所跡です。眼下には80本を数えるもみじ公園。春には青もみじ、秋には錦に彩られます。



1 笠置石

「笠置」の地名の由来。天智天皇の皇子が「笠を置かれた石」なので笠置石です。



2 正月堂

観音悔過法の会湯として、東大寺実忠和尚によって建立された御堂が起源。「お水取り」発祥の場です。



3 虚空蔵石

岩肌に刻まれた9mの仏像は、記憶力がよくなるというご利益のある虚空蔵菩薩さま。元弘の兵火に焼かれず、お姿をとどめています。



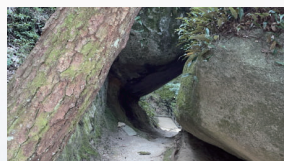
4 胎内くぐり

修行場のスタート。岩の洞窟を母胎にたとえ、通り抜けることによって生まれ変わるとされました。



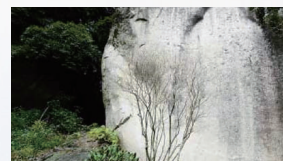
5 ゆるぎ石

元弘の戦乱において武器として使われた岩の残りは、端を押すとゴトゴトと動きます。



6 太鼓石

重なる巨石。丸くはがれている部分の右脇をたたくと「ポンポン」と鼓のような音がします。



7 弥勒磨崖仏

高さ15mの巨石に刻まれた仏は「天人の作」と伝えられ、元弘の戦乱の兵火を最後に焼亡したと言われています。



8 解脱鐘

蓮の花をモチーフに底部に六つの切り込みが施された釣鐘。重要文化財に指定されています。